NIE実践報告

1．タイトル：大学専門教育におけるNIEの試み　ー社会性豊かな福祉職養成に向けてー

2．学校名

兵庫県近畿医療福祉大学

3．実践者名（代表者名）

勝田　吉彰

4．学年

第2・3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

①精神保健学(85人)　②精神医学(67人)

6．単元（本時の学習課題）名

①「後期高齢者医療を考えよう」　②「生の相談に応えてみよう」（以下、①②それぞれ対応）

7．目標（狙い）

①後期高齢者医療制度が及ぼす広範な影響について深く理解する。
②医療相談欄に寄せられる生の相談に応える作業を通じて、教科書的知識を現場で役立てる能力を涵養する。

8．評価の視点

①高齢者の視点、現役世代の視点、医療側の視点など理解できているか。
②一般の相談者の意図を理解できているか。専門用語を使わず平易な言葉で説明できているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

①老年期における精神保健　3時間
②統合失調症／パニック障害／多動性障害／睡眠障害　6時間　合計9時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①後期高齢者医療制度に関する記事（社会面・生活面・経済面・医療面・地方面）、投書、社説など読み込む
→　学生どうし話し合い、理解を深める。
→　関心の高い記事を切り抜き、プリントに貼り、自分の意見・感想を書く。
→　取りまとめて新聞社投書欄担当セクションに送る。
②医療相談欄に寄せられた相談文をあらかじめレポート課題として提示
→　レポート提出後、回答を含めた新聞記事を配布。
→　レポートの講評を交えながら解説、患者に向き合うコツなど説明してゆく。
（留意点）
①投書欄にも関心を広げ、高齢者が何に怒っているのか把握するよう助言した。
②一般からの相談は教科書に載っている専門用語でなされるわけではないことを理解させ、そこから教科書的知識へ結びつけることを学ばせた。相談への回答は要点を押さえ平易にすべきことを理解させた。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

①②共通
社会一般の意識、視点に触れることを新鮮に受け止める感想が目立った。
投稿の採用で贈られる謝礼(図書カード）は講義冒頭で拍手と共に手渡しモチベーション向上に貢献した。

12．成果と課題

①②共通
新聞記事の活用により、社会一般の視点が入りモチベーションの向上につながると共に、福祉専門職に期待される「豊かな社会性」の涵養に結びつく実感が得られた。
今後、さらに、精神疾患や医療制度に限らず「高齢者のこころ」全般へとフィールドを拡大してゆきたい。